

せ い き

21世紀の

う ら し ま た ろ う

浦島太郎



このお話はフィクションですが、The Ocean Cleanupの代表のBoyan Slatさんの話にインスピレーションを頂いて書きました。

お話を書いて、絵を描いた人：田畑サンドーム光恵

お話を作るのを手伝ってくれた人：西尾佐知子

絵の一部はいらすとやさんの絵を使用しました。このページの絵はその中の2つの絵の合成です。

いらすとや：<https://www.irasutoya.com/>

ねん なつ
2011年の夏。ここはギリシャです。

いまがっこう なつやす こうこうせい くん とも うみ き
今学校は夏休みです。高校生のルーカス君は、友だちと海に来ていま
いちがっ き べんきょう たいへん なつやす
した。一学期は勉強が大変でした。だから、夏休みにスキューバダイ
ビングをするのをとても楽しみにしていました。

うみ つ くん とも みずぎ きが うみ はい
海に着いたルーカス君と友だちは、すぐに水着に着替えて海に入ろう
としました。

ふたり うみ きたな
でも、二人はびっくりしました。海がとても汚かったからです。



「えー、何、これ？」

「ビニール袋とか、プラスチックのボトルとかばかりじゃん！
ゴミばかりじゃん！」

二人は、本当にショックでした。水の中は、魚よりゴミの方が多
かったのです。

海がとても汚いので、あきれて見ていると、何か大きな物が動いて
います。

「おい、あれは何だろう。ちょっと行ってみよう。」



ふたり うご もの ちか い
二人は、動いている物の近くに行きました。

ちか よ み うみ
近寄ってよく見ると、それは海がめでした。

うみ
「わー、海がめだ!」

それは、大きな海がめでした。かわいそうな海がめでした。というの
も、その海がめには、ビニール袋がからまっていたからです。とても
およ
泳ぎにくそうでした。

そこで、ルーカス君は、その海がめにからまっているビニール袋を
やさしく取ってあげました。

「さあ、これでもう大丈夫だよ。早くゴミの無い所に泳いでお行
き。」

い くん うみ はな
そう言うと、ルーカス君は、海がめを放してやりました。

「これからは、気をつけるんだよ。もうビニール袋や他のゴミにか
らまっちゃだめだよ。」

さて、その夜の^{よる}ことです。

ルーカス君は夢^{く ん ゆめ み}を見ました。夢^{ゆめ}には、昼間^{ひる またす}助けた海^{うみ}がめ^でが出てきました。そして、海^{うみ}がめは、ルーカス君^{く ん}にこう^い言いました。

「昼間^{ひる ま たす}は助けてくださって、ありがとう^{れい}ございました。お礼に、あなた^{うみ せ かい あんない}を海の世界^{うみ せ かい}に案内^{あんない}します。」

海^{うみ}がめは、ルーカス君^{く ん}を背中^{せ なか}に乗せて、海^{うみ}の中^{なか}に入^{はい}って行^いきました。

「わ、こっ、これは！」

ルーカス君^{く ん}はとてもびっ^{うみ なか}くりしました。海^{うみ}の中^{なか}は、外^{そと}から見る^みよりももっと汚^{きたな}かったからです。

ビニール^{ぶくろ}袋^{ぶくろ}、プラスチック^{さかなつ}のボトル^{どうぐ}、魚^{あか}釣^{あか}りの道具^{どうぐ}、赤ちゃん^{あか}のおむつ^{あか}、たくさんのビニール^{あか}のひも^{あか}……それは、今^{いま}まで見た^みより、もっとたくさんのゴミ^{あか}でした。

「ルーカスさん^{わたし}、私^{わたし}たちの海^{うみ}は、今^{いま}はゴミ^{せ かい}の世界^{せ かい}になってしまいました。毎年^{まいとしなんびき}何匹^{わたし}も、私^{わたし}の友だち^{とも}が、ゴミ^{くび}が首^{くび}にからまったりして、泳^{およ}

げなくて死んでいます。海がめだけじゃありません。アシカたちも、何
匹も死んでいます。もう海の中は、私たちには安全な家ではありません。
ん。」

「はっ。」

ルーカス君が、汚いゴミでいっぱい海から帰ってくると、もう朝
でした。

「ああ、夢だったのか。びっくりした。でも、あれは、本当の話な
んだろうか。」

その日、ルーカス君は、友だちに、

「海に行こう。そして、今日はもう少し深い所までもぐろう。」

と言いました。

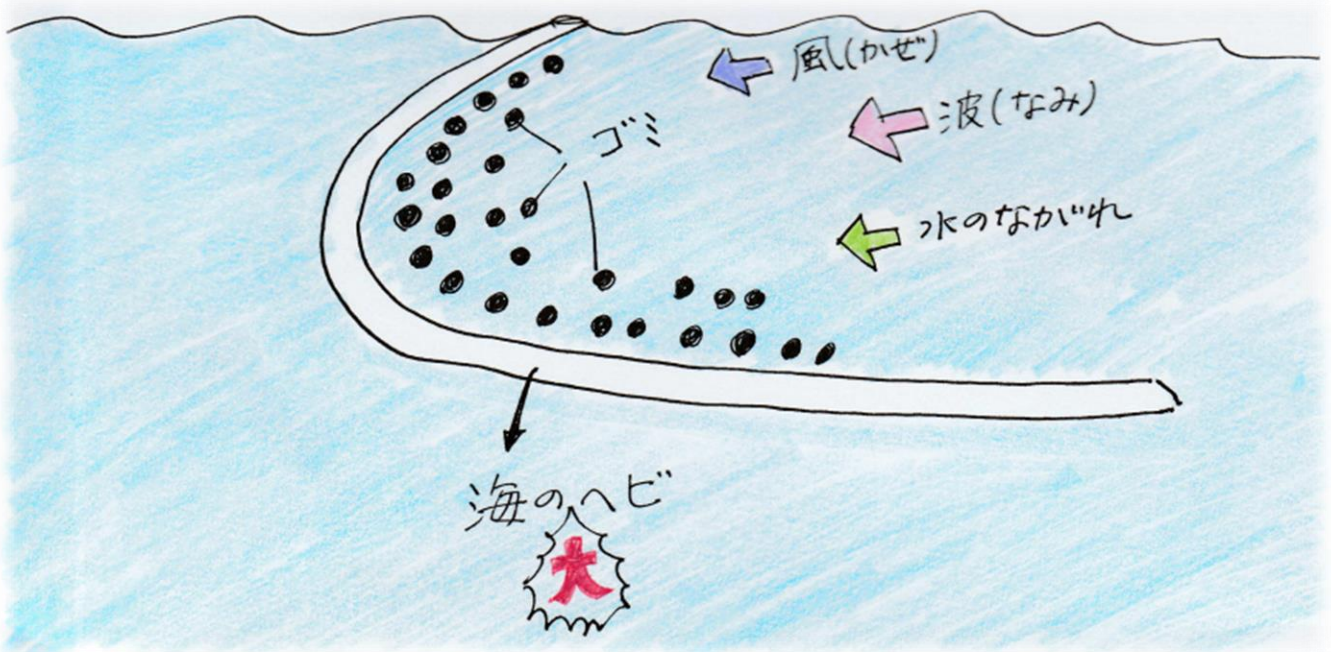
海の中は、昨日の夢と一緒にでした。あちらこちらにゴミがいっぱいで
した。ルーカス君も、友だちも、手や足にいっぱいゴミがまきつきまし
た。泳いで岸まで戻るのは大変でした。

「どうにかしなきゃならない。こんな汚い海じゃ、そのうち、海が
めも他の動物も、全部死んじゃうよ。」

その日からルーカス君の“海のビニールやプラスチックのゴミをそうじするプロジェクト”が始まりました。

7年が経ちました。その7年は大変な時間でした。

でも、ルーカス君と仲間たちは、“大きな海へび”というあだ名のプロジェクトを作ることができました。



この“大きな海へび”が、世界のあちこちの海をそうじしたら、2040年までには、海のゴミの90%を取ることができるかもしれないそうです。